

串本・古座川峡・嶽の森山

平成27年 4月8日(水)～9日(木) 雨～曇り
参加者 嶋原(L) 琴美、岩切 山城(記)

4月8日 AM 6:30 今春の雨模様は「悩ましい天気やなあ」と翻弄されながらも桃山台を出発する。万博の桜も散り終わっていた。

和歌山の西海岸の景色や名跡を車窓から眺めつつ紀ノ川、日高川を渡り梅の里みなべ、白浜、日置川を渡り、すさみ町に入りようやく最南端は串本の名勝『橋杭岩』に到着。奇岩立ち並ぶ海岸で串本といえばテレビの台風実況で暴風雨の荒れ狂うこの海岸が映る。

だが今日は風もなく大潮ようで海岸から続く岩礁が橋杭岩までも続いていて歩いて行けそうだ。

向いの『大島』とは長い長い橋で繋がっているのが見える。

更に南の『潮岬灯台』へ向かった。高所は皆んな大好きで白い塔を登る。光達距離は19海里(35^{キロ}) つか木下恵介の映画を思い出す。

古座川沿いの『道の駅一枚岩』に到着して突然に目を見張る”



(一枚岩)

大きな大きな一枚岩”どっかと川を隔てて鎮座している。日本の秘境100選なるこの一枚岩は高さ100m、幅500mもの。とにかくでっかい～。

また透明度の高いこの古座川は大塔山を源流として熊野灘にそそぐ。

テン場に絶好の場所が、道の駅建屋の階下にあった。(テントも濡れず汚れない) 周辺はキャンプ場らしいが景観が保たれている。

4月9日(木) 夜半からの小雨もいつしか止んだ。

8:00 テン場から5分程さきによく見ると『嶽の森登山口』がある。いきなりの細い急坂に滑り易い落葉で埋まっている。

「ここの下りはちょっと嫌やなあ」なんて云いながら登る。

30分程登った先に大きなスラブ状の一枚岩が両側にそそり立ち、中央のくぼみにナメラ状の沢を水が勢い良く流れている。

岩に刻まれたステップを足場に、長いスラブの傾斜を渡り歩く。次にほっとしたのも束の間で大きな露岩が現れロープを掴んでよじ登る。続く岩場にミツバツツジが迎えてくれる。山頂にちかづく程に、淡黄色のヒカゲツツジ(右写真)があちこちに群生し満開で迎えてくれた。

まじまじと近くで観賞、品良く美しい!と見とれる。

此処は雄岳で東の雌岳へ行くことに。素晴らしいような急降下が続く、有難いような岩場登りで雌岳山頂に到着。上の峰、下



(橋杭岩)

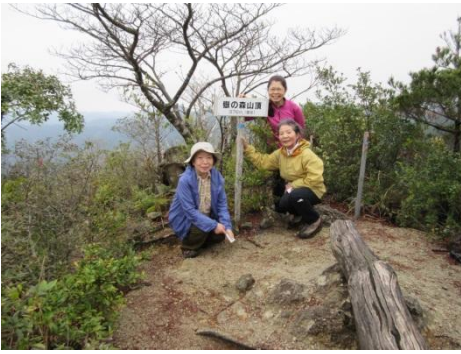


(潮岬灯台)



(ナメトコ)





(雄岳山頂)

ノ峰と言うらしい。何れも岩峰である。

少し降りたタワから、今度は長いロープが3本余り続く、超急降下の下山道を見つけ「ピストンは濡れているし嫌やなあ」で此处を下ることになった。ロープに感謝で下山した。降り立った所は朝の登山口から50mほど先だった。低山ですが十分に楽しめ、面白い山でありました。

ハイカーが登山する山は除いて、周辺の荒れた山々には『蜂の巣桶』が数十個と置かれている。

(どれも足場の悪い所に) 道の駅で地元の蜂蜜が ¥12000/1kg だった。

帰路は紀伊半島の真ん中を貫く168号線で、懐かしく思い出多い国道をドライブで帰阪しました。

追伸、かれこれ4年になろうか古座川のパンフレットを貰って以来、焦がれつつ実施できずにいたが一昨年来、鳴原さんの耳に入り実現できました。鳴原リーダーに感謝と有難う御座いました。